

公益社団法人調布市体育協会  
平成30年度第2回臨時理事会 議事録

- 1 開催日時 平成30年10月23日(火) 午後6時30分～午後7時40分
- 2 開催場所 調布市文化会館たづくり西館3階「会議室」  
調布市小島町2丁目33番地1
- 3 出席者 理事総数 16名  
出席理事 10名  
会長 林 清一  
副会長 山口昌之  
専務理事 折田英文  
常任理事 植松真徳 瀧柳嘉市  
理事 長田克巳 田辺一男 曾木憲一 宇津木光次郎 樋口亘子  
欠席者 6名  
副会長 金子日出澄  
常任理事 秋沢淳雄  
理事 矢幡秀治 新井富一 高橋美智代 稲山孝樹  
監事総数 2名  
出席監事 2名  
小山 敦 村上法彦
- 4 議長兼議事録作成者 会長 林 清一
- 5 決議事項
  - (1) 決議事項
    - ア 議案第3号 調布市総合体育館指定管理者事業計画について
  - (2) その他連絡事項

6 議事の経過の要領及びその結果

定刻会長が議長席に着き開会を宣し、本理事会は定款第35条の規定に定める過半数を満たしており、適法に成立した旨を告げ、次の議案の審議に入った。

(1) 決議事項

ア 議案第3号 調布市総合体育館指定管理者事業計画について  
事務局より資料に基づき説明を行った。

[説明・質疑等の要旨]

[理事] 95 ページ利用料金ですが、平成26年度がこれだけ落ちているのはなぜですか。

[事務局] 空調設備工事により全館休館が3ヵ月間あり、このような結果となりました。

[理事] 分かりました。

[事務局] 補足です。一月の平均では、さほど大きな減少は無いです。

[理事] 行政から出ている、理事、監事の感想はいかがですか。それから、体育協会以外にこの業務を担う選択肢を考えたことがあるのか率直に伺いたい。

[理事] 2点目の体育協会以外を検討したかどうかですが、その都度どのような団体がふさわしいのかを庁内で検討委員会を立ち上げて議論します。当然競争が原則という形の中で、競争に適するのかどうかという判断をしますが、市全体のスポーツ振興を図っていくという視点の中で、総合体育館を

どのように活用すべきか議論をしたときは、体育協会がやはり市全体のスポーツ振興を図る上では、多様な団体との連携が図れるというのと、また、市民を巻き込んでスポーツ事業が推進できるということで適していると選定をしております。そういった内容をその都度検証しながら進めています。営利的な団体が実施をしたときに、やはり利用料金だけで成り立つのかという問題がありますので、本当に公共的なスポーツから競技的なスポーツまで多面的な性格を持っている総合体育館だと思っていますので、そういった視点で議論は必要です。

実際に議論をしていく中で、営利団体にもお話を聞くと、得意な分野がある程度限られてしまうというところがありました。我々としては、公益社団法人の体育協会に市と一体となってスポーツ振興を担っていただきたいという期待も込めて選定している経過がございます。決してそれに甘んじてはいけないという認識をお互いに持ちながら、市も、体育協会も認定の上で市民のためのスポーツ振興を推進していくというものが大事だと思っています。

1点目の感想・意見です。今回、ポイントが幾つかあったと思っています。その中で、やはり4期目になりますので、指定管理で13年、それ以前にも管理委託が14年あり、非常に長い歴史がありますが、その実績をどのようにアピールできるのか、そこが重要なポイントだと思います。

やはり今までの実績に甘んじてマンネリ化をしてはいけないし、常に新しい視点で計画が立てられているかというところで今回聞いていると、これまでの市民ニーズの把握であったり、施設の維持メンテナンスであったり、あるいは災害時の対応、危機管理などの点にも触れられていましたので、そういった点をより以上に積極的に本番ではアピールをしていただきたいと思います。

今回は、指定管理期間が10年に変わり、より長くなりますので、この10年間の総合体育館をどのような形で活用していくのか、また、団体がどのような形で運営基盤を安定させていくのかというところが問われますので、そういった視点にも、人材交流であったり、事業評価であったり、専門的な研修なども少し触れられていましたので、さらにアピールしていただけるとよかったですかと思えます。

人事評価や人材育成など、そういった面での人事考課も導入すべきではないかという意見も市では出ていますので、人材交流であったり、人事評価であったり、事業評価、計画的な研修の実施、それらを振り返りながら、本当に成果が出ているのかというのも大事な視点なのかと思って聞いていました。とりわけ、コミュニティの支援というお話もありましたし、これから少子化、高齢化の中でのスポーツ振興、スポーツの普及と言う点についても、この10年間で少し目を配っていく必要があると思います。

そういった意味では、市が課題となっている事業にどのような形で総合体育館や体育協会が関わっていけるのか、スポーツを通してどのような形でまちづくりに貢献できるのかという視点がやはり重要です。

もう一点気になったのは、市民参加という視点です。市民がどのような形で体育協会の事業に意見を述べたか。先ほどふれあい連絡カードというのがありますが、提出する事業計画書には添付し、積極的にアピールをしてください。市民目線で事業をやっている、その中で専門的な競技、スポーツにも触れる機会、親しめる機会が設けられているという意味で、子どもから大人、高齢者まで様々な事業を限られた人と予算で実施している。それをこれからの10年もより延ばしていくという視点で発表していただければと思います。

**【理事】**非常に興味深いご意見と、今回のプレゼンに関するご見識の高さがよくわかったような気がします。

私もこれを聞いていて、まず足りないのは、私たち体育協会がどうあるべきかというのがなかなか出てきていないのだと思うのです。事業の説明とか実績とかというのは文言では出てくるのですが、体育協会がこうあって、このようにしていくのだというアピールがちょっと少ないのかなと思います。

もう一点は、やはり体育館を管理するというだけではなく、事業を展開していくわけですから、そのときに行政との連携をどう図っていくのかというところをもうちょっと深く表現していただきたいと思うのです。

というのは、体育協会だけとか、体育協会の傘下の加盟団体やご利用される市民の方々だけではできないのです。やはり行政とどうやってパートナーシップを組んで、そのパートナーシップがどのよ

うに発展していった、将来的に10年後にはこういう形の市民スポーツのあり方、市民生活のあり方が実現できるように、ともに歩んでいくのだという表現がとても必要なと思います。その辺をぜひ取り入れていただいて、誰もが感動できるようなプレゼンにしていいただければと思います。

【理事】この10年間で市が一番気にしているところは、来年、ラグビーワールドカップがあり、また、その次の年に東京2020大会がある。この2つの大きな世界大会をまちの発展につなげていくきっかけにしていくのだというのを市長は強く言っています。そういった点もアピールポイントとして入れて欲しい。こういったオリンピック、パラリンピック、ラグビーワールドカップには体育協会が積極的に関わって、市民のために事業展開をしていく点も大きなポイントだと思っていますので、障害者スポーツの普及という点も触れられていたと思いますが、そういったことも含めながら、ソフト、ハード面で積極的にこれからの調布のために、新しい調布、またオリンピック・パラリンピック後の調布も意図しながらスポーツの普及に努めていくというような視点もぜひ触れられていただければと思います。

【議長】この30年経つ施設で事務局は本当によくやっているというのが私の感想です。先日、車いすバスケットボールのキャンプを受入れた際に感じたのは、障害者の方々に優しくない施設と感じを受けたので、近隣の新しいスポーツ施設は、かなりバリアフリーとなって、非常に使いやすい施設が増えている。調布は古いということもありますが、かなり遅れていると感じました。

それも含めて、これから電気設備、空調、給排水等も手は入れているにしても、根本的に大きく変えなければいけない時期になってきているという感じはいたします。オリンピック・パラリンピックを契機に予算を増やしていただき、もう少し使いやすい体育館にしていければという感じがいたします。安心・安全な維持管理においても、緊急時の対応業務というのが出てきているが、では、緊急時、その誘導をどのようにしたら良いのかというの、これから考えていかななくてはなりません。ほとんどが地下に潜っている施設なので、もし大きな地震が来て、あるいはそういった災害に遭ったときに、地下にいる人たちの誘導の仕方とか、そういったのも併せて考えて下さい。

他に質問等は無く賛否を諮ったところ、全員異議なくこれを承認した。

## (2) 連絡事項

本理事会の議事録の署名人は定款第38条により、林会長、小山監事、村上監事とする旨承認された。

以上、すべての議題について審議を終了し、平成30年度第2回臨時理事会を閉会した。